

急変患者対応シミュレーション研修効果の検証

HCU ○田中瑞絵 草場昂 星野美喜代 松尾実佳 平山杏奈 小柳実香 坂井美和

【はじめに】

当院 HCU 病棟では救急搬送された患者や、院内急変・術後患者が入室する部門である。病棟内での急変も珍しくない。HCU 看護師には急変対応や、処置などに迅速に対応出来るスキルが求められる。しかし現状では、経験年数・年齢に関係なく、急変対応時に上手く動けない、処置に対して不安を感じているスタッフが多いように見受けられた。スタッフがどのような事を不安に感じているのかを把握し、上記のスキルを向上させる必要があると考えた。そこで、HCU 内で急変対応のシミュレーションを実施し、前後でアンケートを取ることで現状の把握と、急変時に必要なスキルの向上に繋がり、スタッフの不安軽減にも繋がると考えた。

【目的】

急変時のシミュレーションを行うことで、スタッフのスキル向上や不安の軽減が出来る。

【研究方法】

期間：平成 30 年 7 月から 11 月

対象：HCU 看護師 10 名（内看護師経験 5 年以内 5 名 10 年以上 3 名）

方法：日常業務で不安な点をアンケート調査。意見の多かった蘇生処置についてシミュレーションを実施。BLS、ACLS を基に心肺蘇生シミュレーションシナリオを作成。シナリオ内で ASYS、PEA、VF、VT (pulseless) のシーンを取り入れ全員が 4 シーンとも経験できるように実施。状況設定のみを伝え、指示せず、リーダーの指示で蘇生に挑む。実施後グリーンフィングを行う。シミュレーション実施期間終了後アンケート調査を実施。

【結果】

実施後アンケートの結果、10 名中 9 名が不安の軽減につながったと回答。具体的な意見として、「自分がどのような対応をすべきかイメージ出来た。」「急変時の流れや、各処置の手技やタイミングが理解できた。」等の回答が多く得られた。

また、「指示役として客観的に見る事でスタッフの動き方やスキルの把握、自分がどう行動すべきかの判断が出来るようになった。」との回答もあった。

【考察】

HCU 看護師は、高い緊張感の中で業務を強いられる場面が多い。アンケートで急変対応に対するストレスを感じるスタッフが多いことが分かった。先行研究では、ストレスマネジメントを行う上で、「準備とサポート」が必要であると述べられている。今回の研究では、「準備」に着目し、シミュレーションを実施した。上記結果で得られたように不安の軽減につながったと考える。また、スキルは繰り返しの経験で一定の水準を維持できると考えられる。加えて、急変時の対応では個人の知識や技術はもちろんだがチームワークが必要不可欠となる。急変時の対応が迅速に行われ、患者さんの救命に繋がるよう継続していきたい。